専攻分野/コース （英文名）	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学 （ Rheumatology and Allergology ）
研究指導教員	川畑 仁人
研究・教育の概略	リウマチ性疾患およびアレルギー疾患には、難治性病態が未だに多く、確立されていな治療分野も多い。近年の遺伝子工学、分子生物学、免疫学、炎症再生医学の進歩により、多くの難治性疾患が克服されつつある。その歴史をひも解き、先人達が成し遂げた研究のプロセスを吟味し、どの様な方法で新しい知見を発見し、新しい診断法や治療法として確立してきたかを理解することが大切であり、その学習を通じて、成人や小児におけるリウマチ性疾患およびアレルギー疾患の病因・病態解明とより新しい診断法・治療法を探求していけるような医学者・臨床医を養成したい。
研究項目	1. 免疫学の基礎知識の臨床への応用 2. 関節リウマチの病態解明と治療法の開発 3. 膠原病の病態解明と治療法の開発 4. リウマチ性疾患およびアレルギー疾患臨床研究 5. リウマチ性疾患およびアレルギー疾患ケーススタディを通した病態研究 6. リウマチ性疾患およびアレルギー疾患の新しい EBM の研究
準備学習(予習・復習)	事前に参考資料を読むこと

2023 年度講義シラバス（１）

講義コード	※	専攻分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学		
講義題目	リウマチ性疾患 Up To Date－Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	大岡　正道	担当教員連絡先	PHS 81315		
単位数	2 単位（前期 1・後期1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	日進月歩のリウマチ膠原病疾患に関する新知見を学ぶ				
講義計画	抄読会形式で、最新論文の成績を吟味、評価し、診療への役立て方を学ぶ。				
達成目標	研究の背景、仮説、方法論、結果のまとめ方、結果の評価方法を理解する。 得られた知見を臨床に応用する方法を理解する。				
教科書・参考書	最新論文				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	リウマチ膠原病疾患に関する新知見を学び、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	その時点の最新論文をとりあげるため、内容は一週間前に決まる。	1	その時点の最新論文をとりあげるため、内容は一週間前に決まる。
2	〃	2	〃
3	〃	3	〃
4	〃	4	〃
5	〃	5	〃
6	〃	6	〃
7	〃	7	〃
8	〃	8	〃
9	〃	9	〃
10	〃	10	〃
11	〃	11	〃
12	〃	12	〃
13	〃	13	〃
14	〃	14	〃
15	評価日	15	評価日

2023 年度講義シラバス（２）

講義コード	※	専攻分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学		
講義題目	リウマチ性疾患 Up To Date －Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	川畑　仁人	担当教員連絡先	PHS 80308		
単位数	2 単位（前期 1・後期1）	履修年次	2年		
テーマと目的	日進月歩のリウマチ膠原病疾患に関する新知見を学ぶ				
講義計画	抄読会形式で、最新論文の成績を吟味、評価し、診療への役立て方を学ぶ。				
達成目標	研究の背景、仮説、方法論、結果のまとめ方、結果の評価方法を理解する。 得られた知見を臨床に応用する方法を理解する。				
教科書・参考書	最新論文				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	リウマチ膠原病疾患に関する新知見をさらに追及し、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	その時点の最新論文をとりあげるため、内容は一週間前に決まる。	1	その時点の最新論文をとりあげるため、内容は一週間前に決まる。
2	〃	2	〃
3	〃	3	〃
4	〃	4	〃
5	〃	5	〃
6	〃	6	〃
7	〃	7	〃
8	〃	8	〃
9	〃	9	〃
10	〃	10	〃
11	〃	11	〃
12	〃	12	〃
13	〃	13	〃
14	〃	14	〃
15	評価日	15	評価日

2023 年度講義シラバス（３）

講義コード	※	専攻分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学		
講義題目	リウマチ性疾患ケーススタディーⅠ			必修/選択	必修
担当教員	川畑　仁人	担当教員連絡先	PHS 80308		
単位数	2 単位（前期 1・後期1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例検討を通じて、リウマチ膠原病の病因・病態を学ぶ				
講義計画	リウマチ膠原病疾患の症例検討会において、疾患の発症機序や病態について議論し、組織破壊・炎症・免疫・再生の理解を深める。				
達成目標	各種リウマチ膠原病疾患の発症機序や病態に関する理解を深める。 生体防御反応である炎症・免疫・再生のメカニズムを理解する。				
教科書・参考書	Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 7th Edition				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	症例検討を通じて、リウマチ膠原病の病因・病態を学び、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	症例は一週間前に決まる。	1	症例は一週間前に決まる。
2	〃	2	〃
3	〃	3	〃
4	〃	4	〃
5	〃	5	〃
6	〃	6	〃
7	〃	7	〃
8	〃	8	〃
9	〃	9	〃
10	〃	10	〃
11	〃	11	〃
12	〃	12	〃
13	〃	13	〃
14	〃	14	〃
15	評価日	15	評価日

2023 年度講義シラバス（４）

講義コード	※	専攻分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学		
講義題目	リウマチ性疾患ケーススタディーⅡ			必修/選択	必修
担当教員	山崎　和子	担当教員連絡先	PHS 80369		
単位数	2 単位（前期 1・後期1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	症例検討を通じて、リウマチ膠原病の病因・病態を学ぶ				
講義計画	小児期発症リウマチ膠原病疾患の症例検討会において、疾患の発症機序や病態について議論し、組織破壊・炎症・免疫・再生の理解を深める。				
達成目標	各種リウマチ膠原病疾患の発症機序や病態に関する理解を深める。 生体防御反応である炎症・免疫・再生のメカニズムを理解する。 ヒト免疫の発達と感染防御について理解する。				
教科書・参考書	Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 7th Edition				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	症例検討を通じて、リウマチ膠原病の病因・病態をさらに追及し、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	症例は一週間前に決まる。	1	症例は一週間前に決まる。
2	〃	2	〃
3	〃	3	〃
4	〃	4	〃
5	〃	5	〃
6	〃	6	〃
7	〃	7	〃
8	〃	8	〃
9	〃	9	〃
10	〃	10	〃
11	〃	11	〃
12	〃	12	〃
13	〃	13	〃
14	〃	14	〃
15	評価日	15	評価日

2023 年度講義シラバス（５）

講義コード	※	専攻分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学		
講義題目	リウマチ性疾患の新しい EBM－Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	山崎　宜興	担当教員連絡先	内線 4285		
単位数	2 単位（前期 1・後期1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	膠原病疾患の新しい EBM を理解する。				
講義計画	膠原病疾患の症例検討会に取り上げられた疾患に関する新しい診断治療に関する EBM がどのような研究手法で確立されたかを理解し、将来の研究に役立てる。				
達成目標	各種膠原病疾患の診断や治療に関する新しい EBM を学ぶ。 EBM がどのような研究手法で確立されたかを理解し、方法論を学ぶ。				
教科書・参考書	森實敏夫　臨床医のための EBM アップグレード				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	膠原病疾患の新しい EBM を理解し、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	SLE の遺伝要因 1	1	膠原病性肺高血圧症の診断法
2	SLE の遺伝要因 2	2	ANCA 関連血管炎の診断と分類
3	強皮症の遺伝要因 1	3	ループス腎炎の治療 1
4	強皮症の遺伝要因 2	4	ループス腎炎の治療 2
5	皮膚筋炎・多発性筋炎の遺伝要因	5	強皮症の治療法 1
6	シェーグレン症候群の遺伝要因	6	強皮症の治療法 2
7	ANCA 関連血管炎の遺伝要因	7	皮膚筋炎多発性筋炎の治療
8	SLE 発症の環境要因 1	8	ANCA 関連血管炎の治療法 1
9	SLE 発症の環境要因 2	9	ANCA 関連血管炎の治療法 2
10	強皮症発症の環境要因	10	間質性肺炎の治療法 1
11	ANCA 関連血管炎発症の環境要因	11	間質性肺炎の治療法 2
12	ループス腎炎の診断法 1	12	肺動脈性肺高血圧症の治療法 1
13	ループス腎炎の診断法 2	13	肺動脈性肺高血圧症の治療法 2
14	膠原病性間質性肺炎の診断法	14	抗リン脂質抗体症候群の治療
15	評価日	15	評価日

2023 年度講義シラバス（６）

講義コード	※	専攻分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学		
講義題目	リウマチ性疾患の新しい EBM－Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	永渕　裕子	担当教員連絡先	PHS 80560		
単位数	2 単位（前期 1・後期1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	リウマチ膠原病疾患の新しい EBM を理解する。				
講義計画	リウマチ膠原病疾患の症例検討会に取り上げられた疾患に関する 新しい診断治療に関する EBM がどのような研究手法で確立されたかを理解し、将来の研究に役立てる。				
達成目標	各種リウマチ膠原病疾患の診断や治療に関する新しい EBM を学ぶ。 EBM がどのような研究手法で確立されたかを理解し、方法論を学ぶ。				
教科書・参考書	森實敏夫　臨床医のための EBM アップグレード				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	膠原病疾患の新しい EBM をさらに追及し、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	RA の遺伝要因 1	1	RA の治療 1（ MTX ）
2	RA の遺伝要因 2	2	RA の治療 2（ MTX ）
3	RA と喫煙 1	3	RA の治療 3（ SASP ）
4	RA と喫煙 2	4	RA の治療 4（ GST ）
5	RA の早期診断 1	5	RA の治療 5（ FK ）
6	RA の早期診断 2	6	RA の治療 6（ LEF ）
7	RA の早期診断 3	7	RA の治療 7（ INF ）
8	RA の鑑別診断 1	8	RA の治療 8（ INF ）
9	RA の鑑別診断 2	9	RA の治療 9（ ETN ）
10	RA の鑑別診断 3	10	RA の治療 10（ ETN ）
11	RA の活動性評価法 1	11	RA の治療 11（ ADL ）
12	RA の活動性評価法 2	12	RA の治療 12（ TOC ）
13	RA の活動性評価法 3	13	RA の治療 13（ ABT ）
14	RA の活動性評価法 4	14	RA の治療 14（ Rif ）
15	評価日	15	評価日

2023 年度講義シラバス（７）

講義コード	※	専攻分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学		
講義題目	リウマチ研究 UpDates-1			必修/選択	必修
担当教員	高桑　由希子	担当教員連絡先	PHS 81203		
単位数	2 単位（前期 1・後期1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	リウマチ研究の最前線を理解する。				
講義計画	リウマチ性疾患に関する基礎的研究の動向とその方向性を学ぶ。				
達成目標	リウマチ性疾患の病因病態研究の最前線を理解する。 基礎的研究の仮説の設定、方法論、結果の解釈法を理解する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	リウマチ研究の最前線を確認し、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	ループス腎炎の病因 1	1	強皮症の要因 1
2	ループス腎炎の病因 2	2	強皮症の要因 2
3	ループス腎炎の組織 1	3	強皮症の病態 1
4	ループス腎炎の組織 2	4	強皮症の病態 2
5	ループス腎炎の組織 3	5	強皮症の病態 3
6	ループス腎炎の組織 4	6	強皮症の病型 1
7	ループス腎炎の組織 5	7	強皮症の病型 2
8	ループス腎炎の組織 6	8	強皮症の腎病変 1
9	ループス腎炎の治療研究 1	9	強皮症の腎病変 2
10	ループス腎炎の治療研究 2	10	強皮症の肺病変 1
11	ループス腎炎の治療研究 3	11	強皮症の肺病変 2
12	ループス腎炎の治療研究 4	12	強皮症の肺高血圧症 1
13	ループス腎炎の治療研究 5	13	強皮症の肺高血圧症 2
14	CNS ループス	14	強皮症の肺高血圧症 3
15	評価日	15	評価日

2023 年度講義シラバス（８）

講義コード	※	専攻分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学		
講義題目	リウマチ研究 UpDates-2			必修/選択	必修
担当教員	今村　充	担当教員連絡先	PHS 80546		
単位数	2 単位（前期 1・後期1）	履修年次	2年		
テーマと目的	リウマチ研究の最前線を理解する。				
講義計画	リウマチ性疾患に関する基礎的研究の動向とその方向性を学ぶ。				
達成目標	リウマチ性疾患の病因病態研究の最前線を理解する。 基礎的研究の仮説の設定、方法論、結果の解釈法を理解する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	リウマチ研究の最前線を理解し、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	多発性筋炎の病態	1	ANCA の病態形成機序 1
2	皮膚筋炎の病態	2	ANCA の病態形成機序 2
3	PM/DM の治療研究 1	3	ANCA 関連血管炎の病因 1
4	PM/DM の治療研究 2	4	ANCA 関連血管炎の病因 2
5	PM/DM の間質性肺炎 1	5	MPA の腎病変 1，2
6	PM/DM の間質性肺炎 2	6	WG の腎病変 1，2
7	PM/DM の間質性肺炎 3	7	MPA の肺病変 1
8	PM/DM の悪性腫瘍	8	MPA の肺病変 2
9	PM/DM の心筋病変	9	MPA の肺病変 3
10	自己炎症性疾患 1	10	MPA の肺病変 4
11	自己炎症性疾患 2	11	ANCA 関連血管炎の治療 1
12	自己炎症性疾患 3	12	ANCA 関連血管炎の治療 2
13	血球貪食症候群 1	13	ANCA 関連血管炎の治療 3
14	血球貪食症候群 2	14	ANCA 関連血管炎の治療 4
15	評価日	15	評価日

2023 年度講義シラバス（９）

講義コード	※	専攻分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学		
講義題目	臨床免疫学 Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	永渕　裕子	担当教員連絡先	PHS 80560		
単位数	2 単位（前期 1・後期1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	臨床免疫学の基礎を理解する。				
講義計画	基礎及び臨床免疫学の基本的知識を学習する。				
達成目標	臨床免疫学の基本を理解する。				
教科書・参考書	1. Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 7th Edition 2. Kelly's Textbook of Rheumatology 8th Edition				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	臨床免疫学の基礎を理解し、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	General Feature of Immune System	1	Neutrophils
2	Innate Immunity	2	Eosinophils
3	Adaptive Immunity	3	Mast cells
4	T lymphocyte	4	Prostaglandins, Leukotrienes and Related Compounds
5	B lymphocyte	5	Fibroblast Function and Fibrosis
6	復習と討論	6	復習と討論
7	Complement	7	Structure and Function of Histocompatibility Molecules
8	Platelets	8	復習と討論
9	Macrophage	9	Immediate Hypersensitivity　（ Type Ⅰ）
10	Dendritic cells	10	Systemic Anaphylaxis & Local Hypersensitivity
11	Natural Killer cells	11	復習と討論
12	復習と討論	12	Antibody-Mediated（ TypeⅡ ）Hypersensitivity
13	Cytokines 1	13	Immune Complex-mediated （ TypeⅢ ） Hypersensitivity
14	Cytokines 2	14	Cell-Mediated（ TypeⅣ ） Hypersensitivity
15	復習と討論	15	復習と討論

2023 年度講義シラバス（１０）

講義コード	※	専攻分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学		
講義題目	臨床免疫学 II			必修/選択	必修
担当教員	大岡　正道	担当教員連絡先	PHS 81315		
単位数	2 単位（前期 1・後期1）	履修年次	2年		
テーマと目的	臨床免疫学の基礎を理解する。				
講義計画	基礎及び臨床免疫学の基本的知識を学習する。				
達成目標	臨床免疫学の基本を理解する。				
教科書・参考書	1. Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 7th Edition 2. Kelly's Textbook of Rheumatology 8th Edition				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	さらに追及した臨床免疫学を理解し、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	Transplant rejection	1	Vasculitides 1
2	Autoimmune Disease	2	Vasculitides 2
3	Immunologic Tolerance	3	Amyloidosis
4	Antinuclear Antibodies	4	Sarcoidosis
5	Systemic Lupus Erythematosus	5	復習と討論
6	復習と討論	6	Primary Immunodeficiencies
7	Biology of Normal Joint	7	Acquired Immunodeficiency Syndrome 1
8	Proteoglycans and Cartilage	8	Acquired Immunodeficiency Syndrome 2
9	Rheumatoid Factor	9	復習と討論
10	Rheumatoid Arthritis	10	Corticosteroid
11	復習と討論	11	Nonsteroidal Antiinflammatory Drug
12	Sjögren Syndrome	12	Methotrexate
13	Systemic Sclerosis	13	Immunoregulatory Drugs
14	Inflammatory Myopathy	14	Biologic Agents for Treatment of Rheumatoid Arthritis
15	復習と討論	15	復習と討論

2023 年度講義シラバス（１１）

講義コード		専攻分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学		
講義題目	分子生物学概論実習（Ｉ）			必修/選択	必修
担当教員	鈴木　真奈絵		担当教員連絡先	内線 3522	
単位数	1単位（前期・後期）		履修年次	1年	
テーマと目的	分子生物学の基本的技術、遺伝子組換え技術を実習する。				
講義計画	核酸の定量、標識、抽出、cDNA 作製、遺伝子のスクリーニングとクローニング、遺伝子の増幅と塩基配列血清、蛋白質解析などを実際に行う				
達成目標	1. DNA を取り扱う分子生物学的方法とその原理を理解し、説明できる。 2. 特定遺伝子（DNA）を抽出・増幅法とその原理を理解し説明できる。				
教科書・参考書	1. 細胞の分子生物学（Bruce Alberts（著），中村　桂子（翻訳），松原　謙一（翻訳）、ニュートンプレス、 第 4 版、2004） 2. バイオ実験イラストレイテッド〈1〉分子生物学実験の基礎（中山　広樹（著），西方　敬人（著）、秀潤社、1995）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	分子生物学の手技を会得し、実験・観察結果を正しく理解する能力を習得する。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	DNA抽出の実際（1）	1	プライマーの設計の実際（1）
2	DNA抽出の実際（2）	2	プライマーの設計の実際（2）
3	RNA抽出の実際（1）	3	塩基配列決定の実際（1）
4	RNA抽出の実際（2）	4	塩基配列決定の実際（2）
5	DNAの定量法の実際（1）	5	ベクターの作成の実際（1）
6	DNAの定量法の実際（2）	6	ベクターの作成の実際（2）
7	RNAの定量法の実際（1）	7	ベクターの作成の実際（3）
8	RNAの定量法の実際（2）	8	大腸菌による蛋白質産生の実際（1）
9	cDNA の作成の実際（1）	9	大腸菌による蛋白質産生の実際（2）
10	cDNA の作成の実際（2）	10	大腸菌による蛋白質産生の実際（3）
11	cDNA の作成の実際（3）	11	無生物系蛋白質産生の実際（1）
12	DNAプローブの作成法（1）	12	無生物系蛋白質産生の実際（2）
13	DNAプローブの作成法（2）	13	総合討論と発表（1）
14	PCRの実際（1）	14	総合討論と発表（2）
15	PCRの実際（2）	15	総合討論と発表（3）

2023 年度講義シラバス（１２）

講義コード	※	専攻分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学		
講義題目	リウマチ性疾患の新しい病態ーI			必修/選択	選択
担当教員	川畑　仁人	担当教員連絡先	PHS 80308		
単位数	2 単位（前期 1、後期1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	新たに提唱・発見された病態に関する新知見を学ぶ				
講義計画	最新論文の成績を吟味、評価し、免疫疾患の病態の理解を深める。				
達成目標	研究の背景、仮説、方法論、結果のまとめ方、結果の評価方法を理解する。 得られた知見を臨床に応用する方法を理解する。				
教科書・参考書	最新論文				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	新たに提唱・発見された病態に関する新知見を学び、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	Autoinflammatory syndrome　1	1	Thrombotic microangiopathy　1
2	Autoinflammatory syndrome　2	2	Thrombotic microangiopathy　2
3	Autoinflammatory syndrome　3	3	Thrombotic microangiopathy　3
4	Autoinflammatory syndrome　4	4	Thrombotic microangiopathy　4
5	Autoinflammatory syndrome　5	5	Thrombotic microangiopathy　5
6	Autoinflammatory syndrome　6	6	血球貪食症候群　1
7	Autoinflammatory syndrome　7	7	血球貪食症候群　2
8	Autoinflammatory syndrome　8	8	血球貪食症候群　3
9	Autoinflammatory syndrome　9	9	血球貪食症候群　4
10	Fasciitis-panniculitis syndrome　1	10	Inflammasome　1
11	Fasciitis-panniculitis syndrome　2	11	Inflammasome　2
12	Fasciitis-panniculitis syndrome　3	12	Inflammasome　3
13	Fasciitis-panniculitis syndrome　4	13	Inflammasome　4
14	Fasciitis-panniculitis syndrome　5	14	Inflammasome　5
15	評価日	15	評価日

2023 年度講義シラバス（１３）

講義コード	※	専攻分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学		
講義題目	リウマチ性疾患の新しい病態ーII			必修/選択	選択
担当教員	今村　充	担当教員連絡先	PHS 80546		
単位数	2 単位（前期 1、後期1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	新たに提唱・発見された病態に関する新知見を学ぶ				
講義計画	最新論文の成績を吟味、評価し、免疫疾患の病態の理解を深める。				
達成目標	研究の背景、仮説、方法論、結果のまとめ方、結果の評価方法を理解する。 得られた知見を臨床に応用する方法を理解する。				
教科書・参考書	最新論文				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	新たに提唱・発見された病態に関する新知見をさらに追及し、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	ANCA 関連間質性肺炎 1	1	Macrophage activating syndrome 1
2	ANCA 関連間質性肺炎 2	2	Macrophage activating syndrome 2
3	ANCA 関連間質性肺炎 3	3	強皮症の病態解明　新展開 1
4	ANCA 関連間質性肺炎 4	4	強皮症の病態解明　新展開 2
5	ANCA 関連間質性肺炎 5	5	強皮症の病態解明　新展開 3
6	Hypersensitivity syndrome 1	6	
7	Hypersensitivity syndrome 2	7	
8	Hypersensitivity syndrome 3	8	
9	Hypersensitivity syndrome 4	9	
10	Hypersensitivity syndrome 5	10	
11	IgG4 syndrome 1	11	
12	IgG4 syndrome 2	12	
13	IgG4 syndrome 3	13	
14	IgG4 syndrome 4	14	
15	評価日	15	評価日

2023 年度講義シラバス（１４）

講義コード	※	専攻分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学		
講義題目	小児リウマチ学			必修/選択	選択
担当教員	森　雅亮	担当教員連絡先	内線　4285		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	小児リウマチ学の新たに提唱・発見された病態に関する新知見を学ぶ				
講義計画	最新論文の成績を吟味、評価し、小児リウマチ学の病態の理解を深める。				
達成目標	研究の背景、仮説、方法論、結果のまとめ方、結果の評価方法を理解する。 得られた知見を臨床に応用する方法を理解する。				
教科書・参考書	最新論文				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	特に専門的・特殊的分野として新たに提唱・発見された病態に関する新知見を学び、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	小児の不明熱と鑑別疾患	1	小児期発症混合性結合組織病
2	小児の四肢疼痛の診察方法と鑑別疾患	2	小児期発症シェーグレン症候群
3	小児リウマチ性疾患と腎病理	3	小児ベーチェット病
4	小児リウマチ性疾患と皮膚病変	4	血管炎総論
5	小児リウマチ性疾患と肺病変	5	高安動脈炎
6	小児リウマチ性疾患と眼病変	6	ANCA 関連血管炎
7	全身型 JIA	7	IgA 血管炎
8	マクロファージ活性化症候群	8	結節性多発動脈炎
9	関節炎型 JIA	9	川崎病
10	その他の JIA	10	自己炎症性疾患1
11	リウマチ熱	11	自己炎症性疾患 2
12	小児期発症全身性エリテマトーデス	12	自己炎症性疾患 3
13	小児期発症抗リン脂質抗体症候群	13	小児リウマチ性疾患と移行支援医療
14	若年性皮膚筋炎・多発筋炎	14	慢性疾患のこどもの心理社会的問題
15	評価日	15	評価日